



5 インストール 完了後の作業

管理ユーティリティのインストール方法、ネットワーク上のPCのセットアップ方法などインストールを完了した後に行う作業について説明しています。これらの作業は運用中にも確認が必要となる場合があります。

管理ユーティリティのインストール

Express5800/ftサーバにはCD-ROM「EXPRESSBUILDER」が添付されています。

CD-ROM「EXPRESSBUILDER」にはExpress5800/ftサーバ監視用の「ESMPRO/ServerAgent」とExpress5800シリーズ管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。これらの管理ユーティリティをExpress5800/ftサーバ、またはExpress5800/ftサーバを管理するコンピュータ(管理PC)にインストール・セットアップしてください。

ESMPRO/ServerAgent

ESMPRO/ServerAgentは、Express5800/ftサーバのハードウェア、ソフトウェアの稼動状況、構成情報、障害発生状況を監視するためのユーティリティです。何らかの異常を検出するとESMPRO/ServerManagerをインストールしたコンピュータへ通報を行います。

ESMPRO/ServerAgentは、本装置のハードディスクドライブに出荷時にインストール済みです。また、Express5800/ftサーバが提供するソフトウェアのインストールを行うことでインストールされます。ただし、ESMPRO/ServerAgentが動作するためにはお客様の環境に応じて設定を行う必要がありますので、後述の「セットアップを始める前に」を参照して設定を行ってください。



Express5800/ftサーバを連続稼働させるには必ず必要であるためインストールされていることを確認してください。

動作環境

ESMPRO/ServerAgentを動作させることができるハードウェア／ソフトウェア環境は次の通りです。

● ハードウェア

- インストールする装置 Express5800/ftサーバ本体

● ソフトウェア

以下のパッケージが必要です。

- ucd-snmp
- ucd-snmp-devel
- ucd-snmp-utils
- newt
- newt-devel
- portmap
- slang
- slang-devel

セットアップを始める前に

インストールならびにセットアップの前に必ずお読みください。

ESMPRO/ServerAgentを動作させるためには各種サービスが正常にインストールされ、稼動している必要があります。

1. 必要なパッケージの確認

ESMPRO/ServerAgentを使用するためには、以下のパッケージが必要です。
インストールされていないパッケージがある場合には、インストールしてください。

- ucd-snmp
- ucd-snmp-devel
- ucd-snmp-utils
- newt
- newt-devel
- portmap
- slang
- slang-devel

2. snmpdの環境設定

snmpdの環境設定ファイル(/etc/snmp/snmpd.conf)を変更してコミュニティの権利を「READ WRITE」以上にしてください。

以下を参考にして環境設定ファイルをviコマンド等で修正してください。

各設定内容の詳細につきましては、snmpdのオンラインヘルプを参照してください。

```
####
```

```
# Third, create a view for us to let the group have rights to:
```

```
#      name          incl/excl    subtree    mask(optional)
view   all            included    .1         80
```

```
####
```

```
# Finally, great the group read-only access to the systemview view.
```

```
#      group          context  sec.model sec.level prefix read  write notif
access notConfigGroup ""        any      noauth   exact all    all    none
```

3. snmpdの起動設定

snmpdを自動起動できるように設定してください。

4. portmapの起動設定

portmapを自動設定できるように設定してください。

5. ファイアウォールの設定

ESMPRO/ServerManagerから監視する場合、以下のポートを利用して行います。
お使いの環境でファイアウォールの設定をされている場合、以下のポートに対してアクセスを許可する設定を行ってください。

| | |
|-----------|---------|
| snmp | 161/udp |
| snmp-trap | 162/udp |

インストール手順



ESMPRO/ServerAgentは、本装置のハードディスクドライブに出荷時にインストール済みです。また、Express5800/ftサーバが提供するソフトウェアのインストールを行うことでインストールされます。

1. root権限のあるユーザーでログインする。
2. EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセットする。
3. 以下のコマンドを入力してCD-ROMをマウントする。
ここではマウントポイントを「/mnt/cdrom」として説明します。

```
# mount /mnt/cdrom
```
4. ESMPRO/ServerAgentのパッケージが格納されているディレクトリへ移動する。

```
# cd /mnt/cdrom/ESMLINUX/ASIANUX/esmpo_sa
```
5. 以下のスクリプトを実行してパッケージをインストールする。

```
# ./Esmpro_install.sh
```
6. OSを再起動する。

アンインストール手順

1. root権限のあるユーザーでログインする。
2. 以下のスクリプトを実行してパッケージをアンインストールする。

```
# ./Esmpro_remove.sh
```
3. OSを再起動する。

ESMPRO/ServerAgentのセットアップ

次の説明に従ってESMPRO/ServerAgentをセットアップします。



コントロールパネルで日本語を使用する場合は、コントロールパネルを起動する前に次のコマンドを実行してください。このコマンドを実行するとX Windowが起動され、フォントが日本語で表示されます。

```
init 5
```

監視機能

インストールされたESMPRO/ServerAgentの各種設定は出荷時の設定のままです。コントロールパネルで、使用する環境に合わせて設定してください。

1. root権限のあるユーザーでログインする。
2. ESMPRO/ServerAgentがインストールされているディレクトリに移動する。

```
cd /opt/nec/esmpro_sa
```

3. コントロールパネルが格納されているディレクトリに移動する。

```
cd bin
```

4. コントロールパネルを起動する。

```
./ESMagntconf
```

コントロールパネルの画面が表示されます。



通報設定

ESMPRO/ServerAgentからESMPRO/ServerManagerへ通報を行うには、通報手段の設定が必要です。

● マネージャ通報(SNMP)の設定

1. root権限のあるユーザーでログインする。
2. ESMPRO/ServerAgentがインストールされているディレクトリに移動する。

```
cd /opt/nec/esmpro_sa
```

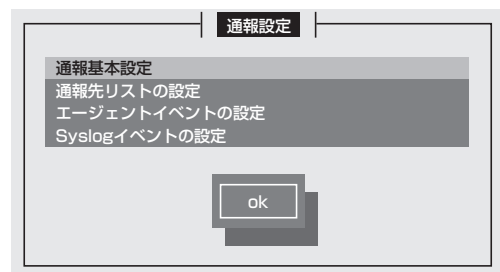
3. 通報設定のツールが格納されているディレクトリに移動する。

```
cd bin
```

4. 通報設定のツールを起動する。

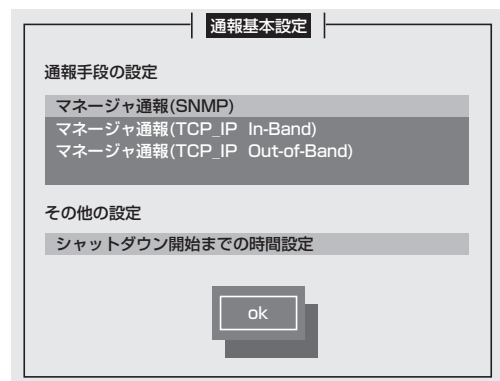
```
./ESMamsadm
```

[通報設定]の画面が表示されます。



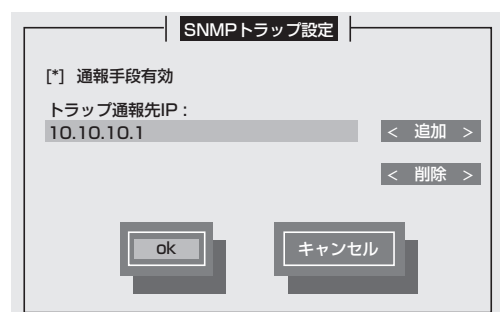
5. [通報基本設定]を選択する。

[通報基本設定]の画面が表示されます。



6. [マネージャ通報(SNMP)]を選択する。

[SNMPトラップ設定]の画面が開きます。



7. [通報先手段]を有効にする。

スペースキーで設定します。チェック時は有効になります。アンチェック時は無効になります。

8. [追加]ボタンを実行して、[トラップ通報先IP]を設定する。

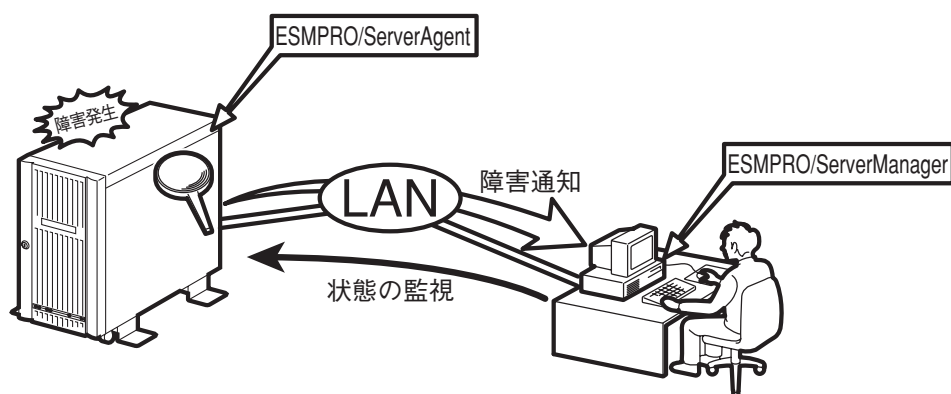
ESMPRO/ServerManagerがインストールされている装置のIPアドレスを設定します。

9. ツールを終了する。

ESMPRO/ServerManagerにマネージャ通報(SNMP)が行われるようになります。

ESMPRO/ServerManager

Express5800/ftサーバにインストールされたESMPRO/ServerAgentと連携して、Express5800/ftサーバの状態の監視や障害通知の受信をします。



また、ESMPRO/ServerManagerはExpress5800/ftサーバ内の故障したモジュールを交換する際に本体からの論理的なモジュールの切り離しや交換後の論理的な組み込みを操作することができます。

ESMPRO/ServerManagerのインストール方法や運用上の注意事項については別冊のユーザーズガイドを参照してください。

DianaScope

DianaScopeはExpress5800シリーズをリモート管理するためのソフトウェアです。

本装置はftリモートマネジメントカード(320Fa-L/320Fa-LRはオプション)を装着している場合のみ、DianaScopeからリモート管理することができます。

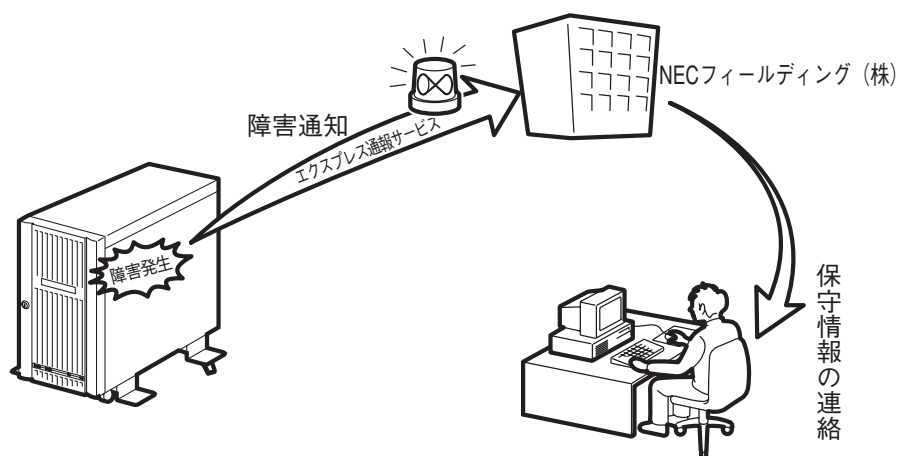
DianaScopeのインストールやセットアップについてはオンラインドキュメントを参照してください。

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスは、お使いになるExpress5800/ftサーバを保守サービス会社が随時その状態を監視し、何らかの異常を検出したときにお客様に通報するサービスです。



ご利用には別途、保守契約が必要です。



本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

カーネルのバージョン確認方法

フォールト・トレラントを実現しているソフトウェアの中核であるカーネルのバージョンを確認する方法について説明します。なお、Express5800/ftサーバに装置を増設する場合など、動作中のカーネルのバージョンを確認する必要がある場合に実施していただくことになります。

バージョン確認には、専用のツールが用意されています。下記の手順に従ってバージョンを確認してください。

1. 以下コマンドを実行する。

```
> uname -a
```

動作中のカーネルのバージョンが表示されます。

以上でバージョンの確認は完了です。